

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
										記事	
141	45.32	45.32	45.32	45.32	45.32	45.32	45.32	55° 割れ目ぞいの幅約5mm前後が淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な雲母が晶出している。	55° 割れ目ぞいの幅約5mm前後が淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な白雲母が晶出している。	45.32m: 傾斜55° の割れ目ぞいの幅約5mm前後が緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	-
142	45.57	45.57	45.57	45.57	45.57	45.57	45.57	55° はせん断性割れ目で、交差する60° と80° 割れ目を切っている(変位置約10mm)。	55° のせん断性割れ目は、交差する60° と80° 割れ目を止めている。切っている(変位置約10mm)。割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.57m: 傾斜55° の割れ目は、交差する60° と80° の割れ目を止めている。割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
143	45.80	45.87	45.80	45.87	45.80	45.87	45.87	70° 低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	70° 低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	45.80~45.87m: 傾斜70° の低密着割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	-
144	46.23	46.23	46.23	46.23	46.23	46.23	46.23	57° 割れ目に幅5mmの固結粘土脈はさむ。	57° 割れ目に幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈狭む。	46.23m: 傾斜57° で幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈を狭む。	-
145	46.28	46.28	46.28	46.28	46.28	46.28	46.28	50° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの雲母が晶出している。	50° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの白雲母が晶出している。	46.28m: 傾斜50° の割れ目ぞい幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。	-
146	46.53	46.60	46.53	46.60	46.53	46.60	46.60	上端45°、下端40° で、上端は直線的でシャープに連続するが下端側は不明瞭である。φ5~10mmの粘土化~硬さD岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した扁平岩片を多く含む硬質粘土でHt様を呈する。一部マンガン鉱染をうけ黒褐色化する。全体の色調は、明褐色(7.5YR 7/2)~黒褐色(7.5YR 3/1)で厚さは70mm(コア長)。	上端45°、下端40° で、上端は直線的でシャープに連続するが下端側は不明瞭である。φ5~10mmの粘土化~硬さD岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した扁平岩片を多く含むマンガン濃集部硬質粘土でHt様を呈する。一部マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟みは見られない。原岩組織が認められる。岩片の定向配列は見られない。全体の色調は、明褐色(7.5YR 7/2)~黒褐色(7.5YR 3/1)で厚さは40mm以上。	46.53~46.60m: 上端45° で直線的にシャープに連続、下端40° で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃集部である。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟みや含まれる岩片の定向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐色~黒褐色を呈する。幅40mm以上。	-
147	46.87	46.92	46.87	46.92	46.87	46.92	46.92	40~60° 割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。黒褐色化する。	40~60° 割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。黒褐色化する。	46.87~46.92m: 傾斜40~60° の割れ目ぞいのマンガン鉱染が著しく、黒褐色化する。	-
148	47.20	47.20	47.20	47.20	47.20	47.20	47.20	50° 割れ目に幅0.5mm以下とごく薄い軟弱な灰白色粘土が断片的に付着している。	50° 割れ目に幅0.5mm以下とごく薄い軟弱な灰白色粘土が断片的に付着している。	47.20m: 傾斜50° の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟弱な灰白色粘土が断片的に付着する。	-
149	47.37	47.66	47.37	47.66	47.37	47.66	47.66	50° 割れ目4本が平行に分布し、これに斜交~直交する30~80° の不規則状に連続する割れ目と低密着割れ目が分布する。前者は直線的でシャープに連続する。せん断性割れ目、後者はせん断性割れ目から生じた2次せん断面の可能性がある。	50° 割れ目4本が平行に分布し、これに斜交~直交する30~80° の不規則状に連続する割れ目と低密着割れ目が分布する。前者は直線的でシャープに連続する。せん断性割れ目、後者はせん断性割れ目から生じた2次せん断面の可能性がある。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	47.37~47.66m: 傾斜50° の直線的にシャープな割れ目が4本平行に分布し、これに斜交~直交する30~80° の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
150	47.52	47.52	-	-	-	-	47.52	47.52	50° 幅5~6mmの石英脈で母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化している。	47.52m: 傾斜50° で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化する。	-
151	47.66	48.35	-	-	-	-	47.66	48.35	50° 前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80° 割れ目がこれらに交差する。	47.66~48.35m: 傾斜50° 前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80° の割れ目がこれらに交差する。	-
152	48.11	-	48.11	48.48	-	-	-	-	48.11m~48.48mは硬さBと堅硬になる。	-	*記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
153	48.11	48.11	75°と40°割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分はφ5mm前後の破砕角礫状を呈し、軟質化する。粘土化は伴わない。	48.11	48.11	75°と40°割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分はφ5mm前後の破砕角礫状を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。	48.11	48.11	48.11m: 傾斜75°と40°の割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分はφ5mm前後の角礫状を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。	-
154	48.35	49.35	30~60°割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈をはさむ割れ目はあるが、分布は少ない。	48.35	49.35	30~60°割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。	48.35	49.35	48.35~49.35m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。	-
155	48.49	48.56	48.49m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~φ5mm前後の細片をはさむ。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	48.39	48.56	48.39m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~φ5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	48.39	48.56	48.39m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~φ5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-
156	48.71	48.71	55°割れ目は軟弱な明黄褐色(10YR 7/6)粘土脈をはさむ。	48.71	48.71	55°割れ目は幅1~2mmの軟弱な明黄褐色(10YR 7/6)粘土脈を挟む。	48.71	48.71	48.71m: 傾斜55°で幅1~2mmの軟弱な明黄褐色粘土脈を挟む。	-
157	49.21	49.21	75°はせん断性割れ目で、ほぼ直交する40°割れ目を切っている(変位置10mm右ズレ)。	49.21	49.21	75°のせん断性割れ目は、ほぼ直交する40°割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、40°の割れ目を止めている。切っている(変位置10mm右ズレ)。 割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.21	49.21	49.21m: 傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
158	49.35	49.93	硬さBと堅硬で、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目も砂や粘土などの挟み物は殆んど分布しない。50~70°とこれに斜交~直交する60~80°割れ目が主体である。	-	-	-	49.35	49.93	49.35~49.93m: 硬さ「B」と堅硬で、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目に砂や粘土などの挟み物は殆んど分布しない。傾斜50~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。	-
159	49.35	49.93	(割れ目状態欄)cランク	49.35	49.93	(割れ目状態欄)bランク	49.35	49.93	(割れ目状態欄)bランク	-
160	49.71	49.71	50°割れ目が1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟み物は分布しない。	49.71	49.71	50°割れ目が幅1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟み物は分布しない。	49.71	49.71	49.71m: 傾斜50°で幅1~2mmが砂状化する。	-
161	49.61	49.61	75°割れ目はせん断性割れ目で、その下盤側で7本の10~30°割れ目を切っている(変位置不明)。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。	49.61	49.61	75°割れ目はせん断性割れ目で、その下盤側で7本の10~30°割れ目を止めている。切っている(変位置不明)。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。 割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.61	49.61	49.61m: 傾斜75°の割れ目は、その下盤側で7本の傾斜10~30°の割れ目を止めている。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟み物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
162	49.93	50.76	50~60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟弱粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	49.93	50.76	50~60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟弱粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	49.93	50.76	49.93~50.76m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟弱粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	-
163	-	-	-	50.09	50.47	50~55°の割れ目に幅1~3mm褐色砂状化が見られる。	50.09	50.47	50.09~50.47m: 傾斜50~55°の割れ目に幅1~3mmで褐色の砂状化が見られる。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)			
			記事 コア観察カードから止しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
			記事 選定した記事内容								
164	50.76	51.24	硬さBで堅硬である。50~60° 割れ目主体で、50.84m・55° 幅2mm風化砂状化する以外は割れ目の挟在物はない	50.76	51.24	硬さBで堅硬である。50~60° 割れ目主体で、50.91m・55° 幅2mm風化砂状化する以外は割れ目の挟在物はない	50.76	51.24	50.76~51.24m: 堅硬である。傾斜50~60° の割れ目主体で、50.91mに傾斜55° で幅2mmの風化砂状化部が見られる以外は割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
165	-	-	-	50.87	50.87	傾斜45°、幅2~3mmの石英脈を挟む。	50.87	50.87	50.87m: 傾斜45° で幅2~3mmの石英脈を挟む。	-	
166	51.24	52.13	硬さBの岩片も含むが、全体的には硬さ「C」主体・互いに直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目からなり、一部でこれら両者と交差する70~80° も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟弱な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土脈が数箇所分布する。	51.24	52.13	硬質な岩片も含むが、全体的にはやや硬質主体。互いに直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する70~80° も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟弱な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土脈が数箇所分布する。	51.24	52.13	51.24~52.13m: 硬質な岩片も含むが、全体的にはやや硬質主体である。互いに直交する傾斜40~60° の割れ目、低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する傾斜70~80° の割れ目も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟弱な明黄褐色の粘土脈が数箇所分布する。	-	
167	51.74	51.74	40° 幅5mmの軟弱な橙色(7.5YR 6/8)が直線的に連続する。下端側5~8mmに淡灰緑色化(緑泥石化)する。	51.74	51.74	40° 幅5mmの軟弱な橙色(7.5YR 6/8)粘土が直線的に連続する。下端側幅5~8mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。	51.74	51.74	51.74m: 傾斜40° で幅5mmの軟弱な橙色粘土が直線的に連続する。下端側幅5~8mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。	-	
168	51.93	52.13	硬さ「C」ないし「D」がφ10mm前後に細片化し、岩片間の一部に厚さ0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	51.93	52.13	やや硬質~やや軟弱でφ10mm前後に細片化し、岩片間の一部に厚さ0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	51.93	52.13	51.93~52.13m: やや硬質~やや軟弱でφ10mm前後に細片化し、岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	-	
169	52.13	52.28	破碎帯	52.13	52.28	破碎部			●52.13~52.28m: 破碎部 52.13m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜50° で幅4~5mmの軟弱なぶい橙色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。 52.13~52.16m: 粘土質礫状部(Hb) 上端50° で直線的にシャープに、下端46° で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。 52.16~52.28m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端46°、下端60° でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟弱な灰白色粘土脈が網状に分布する。52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐色~黒褐色で厚さ120mm(コア長)	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
170	52.13	52.13	Hc-1 50° 幅4~5mmの軟弱なぶい橙色(7.5YR 7/3)の粘土で、φ1mm前後の石英粒を含む。せん断面である。	52.13	52.13	Hc-1(最新活動面) 50° 幅4~5mmの軟弱なぶい橙色(7.5YR 7/3)の粘土で、φ1mm前後の石英粒を含む。直線的なせん断面である。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。					
171	52.13	52.16	Hb 上端40°、下端46° で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒、φ3~5mmのGp岩片を含む礫質粘土で、粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~10mmと膨縮している。	52.13	52.16	Hb 上端50°、下端46° で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒、φ3~5mmのGp岩片を含む粘土質礫状部で粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~20mmと膨縮している。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布する。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	52.13	52.28	●52.13~52.28m: 破碎部 52.13m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜50° で幅4~5mmの軟弱なぶい橙色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。 52.13~52.16m: 粘土質礫状部(Hb) 上端50° で直線的にシャープに、下端46° で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。 52.16~52.28m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端46°、下端60° でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟弱な灰白色粘土脈が網状に分布する。52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため、粘土の存在が不明な区間がある。明褐色~黒褐色を呈する。		
172	52.16	52.28	Hj 上端46°、下端60° で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。φ5~10mmの粘土化~硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟弱な灰白色粘土脈が網状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐色~黒褐色で厚さ120mm(コア長)	52.16	52.28	Hj 上端46°、下端60° で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。φ5~10mmの粘土化~硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟弱な灰白色粘土脈が網状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱染で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐色~黒褐色で厚さ120mm(コア長) やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。					

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事内容		
									コア観察カードから正しく転記されているか?	
		<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>					
173	52.28	52.51	52.28	52.51	φ5~30mmの硬さDないしCの角礫と硬質な砂層状の基質からなる割れ目密集部で岩片化している。角礫構造部(カタラーサイト)。割れ目にマンガンが充填している。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずか。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。	52.28	52.51	52.28~52.51m: 径5~30mmの硬さ「D」ないし「C」の角礫と硬質な砂状の基質からなる割れ目密集部で岩片化する。割れ目にマンガンが充填する。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずかである。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。		
174	52.51	52.51	52.51	52.51	48° 割れ目の上盤側15~20mmは淡緑灰色化(緑泥石化)	52.51	52.51	52.51m: 傾斜48°の割れ目の上盤側15~20mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。		
175	52.51	52.60	52.51	52.60	上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が軟質化著しい。粘土化は殆んど伴わない。	52.51	52.60	52.51~52.60m: 上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。粘土化は殆んど伴わない。		
176	52.60	52.85	52.60	52.85	φ10~30mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる角礫構造部であるが上位に比べ、砂質土の基質は殆んど分布しない。粘土化はないが、岩片部の一部は砂状化する。	52.60	52.85	52.60~52.85m: 径10~30mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる割れ目密集部で岩片化する。上位に比べ砂状の基質は殆んど分布しない。粘土化はないが、岩片部の一部は砂状化する。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。		
177	52.72	52.72	52.72	52.72	45°の割れ目は多数の交差する割れ目を切るせん断性割れ目(変位量不明)	52.72	52.72	52.72m: 傾斜45°の割れ目は多数の交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
178	52.85	52.93	52.85	52.93	上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟化する。一部は硬さDが残留する。45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白色~にぶい橙(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	52.85	52.93	52.85~52.93m: 上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さDが残留する。45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白色~にぶい橙色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。		
179	52.93	53.29	52.93	53.29	40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目からなる。割れ目ぞいの一部は薄く砂状化する。	52.93	53.29	52.93~53.29m: 傾斜40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目ぞいの一部は薄く砂状化する。		
180	53.29	53.50	53.29	53.50	互いに交差する50~70°割れ目、低密着割れ目からなる。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。岩片は硬さ「C」~「D」である。	53.29	53.50	53.29~53.50m: 互いに交差する傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が分布する。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着する。岩片は硬さ「C」~「D」である。		
181	53.50	53.62	-	-	著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。	-	-	53.50~53.62m: 著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。		
182	53.62	54.20	53.62	54.20	硬さ「C」ないし「D」で、40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目は粘土脈はさまないが、一部で薄く砂状化~φ2~3mmの破砕礫状部を挟む。確に定向配列は見られない。	53.62	54.20	53.62~54.20m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土脈は挟まないが、一部で薄く砂状化~径2~3mmの礫状部を挟む。確に定向配列は見られない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
183	54.20	54.20	45° 割れ目は幅3~6mmで砂状~破砕礫をはさむが、マンガン鉱染により黒褐色化する。	54.20 54.20	45° 割れ目は幅3~6mmの粘土質~シルト質砂状~破砕礫を挟む。が、マンガン鉱染により黒褐色化する。	54.20 54.20	54.20m: 傾斜45° で幅3~6mmの粘土~シルト質の砂~礫を挟む。	
184	54.20	55.18	互いにほぼ直交する50~60° 割れ目が主体で、54.83m~50° 割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目は砂状化部や粘土脈ははさまない。岩片は硬さで比較的割れ目は少ない。	54.20 55.18	互いにほぼ直交する50~60° 割れ目が主体で、54.83m~50° 割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土脈を挟まない。岩片は硬さで比較的割れ目は少ない。	54.20 55.18	54.20~55.18m: 互いにほぼ直交する傾斜50~60° の割れ目が主体で、54.83mの傾斜50° の割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土脈を挟まない。比較的割れ目は少ない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
185	55.18	56.71	40~60° 割れ目とこれらに斜交~直交する40~50° が主体で、55.53m以浅では風化で割れ目ぞいが砂状化することが多いが、以深では分布は少なくなる。粘土脈は分布しない。	55.18 56.71	40~60° 割れ目とこれらに斜交~直交する40~50° が主体で、55.53m以浅では風化で割れ目ぞいが砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。	55.18 56.71	55.18~56.71m: 傾斜40~60° の割れ目とこれらに斜交~直交する傾斜40~50° の割れ目が主体で、55.53m以浅では風化で割れ目ぞいが砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。	
186	55.49	55.53	55.49m~55° と55.53m~48° の両割れ目に囲まれた部分は淡灰緑化(緑泥石化)し、各割れ目ぞい1mmが風化で褐色の砂をはさむ。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟弱粘土も付着している。	55.49 55.53	55.49m~55° と55.53m~48° の両割れ目に囲まれた部分は淡灰緑化(緑泥石化)し、各割れ目ぞいに幅1mmが風化で褐色の砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟弱粘土も付着している。	55.49 55.53	55.49m~55° と55.53m~48° の両割れ目に囲まれた部分は緑泥石化により淡緑灰化し、各割れ目ぞいに幅1mmが風化で褐色化した砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟弱粘土も付着する。	
187	56.49	56.49	15° はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量8~10mm右ズレ)	56.49 56.49	15° のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っている(変位量8~10mm右ズレ)。割れ目には挟存物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	56.49 56.58	56.49m~15° 及び56.58m~55° の割れ目は、いずれも交差する割れ目を止めている。割れ目には挟存物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	記事内容が同じであるため、56.58mの記事を含めて記載した
188	56.58	56.58	55° はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量2~3mm右ズレ)。	56.58 56.58	55° のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っている(変位量2~3mm右ズレ)。割れ目には挟存物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
189	56.71	56.88	40~60° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土をはさむことが多い。	56.71 56.88	40~60° 割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。	56.71 56.88	56.71~56.88m: 傾斜40~60° の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。	
190	56.71	56.71	45° 割れ目は幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈をはさみ、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出している。	56.71 56.71	45° 割れ目は幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、暗緑色化(緑泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出している。	56.71 56.71	56.71m: 傾斜45° で幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、緑泥石化により暗緑色化する。また、径0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (要史箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
191	56.88	57.24	破砕帯	56.88	57.24	破砕部			●56.88～57.24m:破砕部 56.88～57.15m:粘土混り岩片状部(Hj) 上端40°で直線的にシャープに、下端58°で波打って連続。径5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長)	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
192	56.88	57.15	Hj 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長)	56.88	57.15	Hj 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長) やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
193	57.15	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒。φ5～30mmの粘土化したGo礫を多く含む軟弱な礫質粘土で色調は明褐色(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰白(2.5GY 8/1)が網状に分布。厚さ20～28mm。	57.15	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒。φ5～30mmの粘土化したGo礫を多く含むやや軟質な礫質粘土で色調は明褐色(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰白色(2.5GY 8/1)が網状に分布。厚さ20～28mm。 細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	56.88	57.24	●56.88～57.24m:破砕部 56.88～57.15m:粘土混り岩片状部(Hj) 上端40°で直線的にシャープに、下端58°で波打って連続。径5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色～白色を呈する。 57.15～57.20m:礫質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1～2mmの石英粒。径5～30mmの粘土化した花崗斑岩の礫を多く含む。やや軟質。明褐色～オリーブ灰～灰白色で網状を呈する。幅20～28mm。 57.20m:粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打って、下端60°で直線的にシャープに連続。軟質でにぶい黄褐色を呈する。幅2～8mm。 57.20～57.24m:粘土混り岩片状部(Hj) 上端60°で直線的にシャープに、下端60°で一部不明瞭に連続。径5mm前後の粘土化～硬さDの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な灰白色の粘土脈が網状に分布する。明褐色を呈する。幅25mm。	
194	57.20	57.20	(主せん断面)Hc-1 60°、厚さ2～8mmの軟弱なにぶい黄褐色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシャープに連続する。	57.20	57.20	(最新活動面)Hc-1 60°、厚さ2～8mmの軟弱なにぶい黄褐色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
195	57.20	57.24	Hj 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さDのGo岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟弱な灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	57.20	57.24	Hj 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さDのGo岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟弱な灰白色(10YR 8/1)の粘土脈が網状に分布し、粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。 やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
196	57.24	58.03	40～60° 割れ目、低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な灰白粘土脈も一部には含まれる。	57.24	58.03	40～60° 割れ目、低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な灰白粘土脈も一部には含まれる。	57.24	58.03	57.24～58.03m:傾斜40～60°の割れ目、低密着割れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な灰白粘土脈も一部には含まれる。	
197	57.90	57.94	40° 割れ目ぞいに砂状化が進み、57.90m～40° 割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	57.90	57.94	40° 割れ目ぞいに砂状化が進み、57.90m～40° 割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	57.90	57.94	57.90～57.94m:傾斜40°の割れ目ぞいに砂状化が進み、上端側の割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	
198	-	-	-	58.00	58.00	傾斜60°、幅8～10mmでマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。	58.00	58.00	58.00m:傾斜60°で幅8～10mmのマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。	
199	58.03	58.29	互いに交差する50～60°からなる。一部で同角の低密着割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	互いに交差する50～60°の割れ目が分布する。一部で同角の低密着割れ目も分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	58.03～58.29m:互いに交差する傾斜50～60°の割れ目と一部で同角の低密着割れ目が分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。	
200	58.29	58.53	(岩級区分欄)D	58.29	58.53	(岩級区分欄)CL	58.29	58.53	(岩級区分欄)CLに含める	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
201	58.29	58.53	58.29	58.53	58.29	58.53	58.29	58.53		
		φ5~30mmの硬さ「C」岩片と締った砂状の基質からなる角礫構造部(カタクレーサイト)で、58.33m・40° 割れ目に厚さ0.5~3mmの軟弱な灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴う。			φ5~30mmの硬さ「C」岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状構造部(カタクレーサイト)で、58.33m・20° 割れ目に厚さ0.5~3mmの不連続で軟質な灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる礫に移動や回転は見られない。			58.29~58.53m: 径5~30mmの硬さ「C」岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状部で、58.33mの傾斜20°の割れ目に幅0.5~3mmの軟弱な灰赤色粘土脈を不連続に伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる礫に移動や回転は見られない。		
202	58.40	58.46	-	-	-	-	58.40	58.46		
		一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。			-	-	58.40	58.46	58.40~58.46m: 一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	
203	58.53	60.00	58.53	60.00	58.53	60.00	58.53	60.00		
		互いに交差する30~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で上端側の58.53~58.91mと、下端側の59.90~60.00mはいずれも硬さCで、その他は硬さBである。また、58.66~58.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟化した硬さEである。硬さBの58.91~59.90mでは割れ目は多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。			互いに交差する30~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で上端側の58.53~58.91mと、下端側の59.90~60.00mはいずれも硬さCで、その他は硬さBである。また、58.66~58.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟化した硬さEである。硬さBの58.91~59.90mでは割れ目は多いが、割れ目には挟在物は殆んどない。			58.53~60.00m: 互いに交差する傾斜30~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、58.66~58.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟質化している。58.91~59.90m間は割れ目が多いが、割れ目に挟在物は殆んどない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
204	59.90	60.00	59.90	60.00	59.90	60.00	59.90	60.00		
		割れ目ぞいにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。			割れ目沿いにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。			59.90~60.00m: 割れ目沿いに風化がやや進み、薄く砂状化するものがある。		
205	59.46	59.46	59.46	59.46	59.46	59.46	59.46	59.46		
		45° 割れ目ぞい幅5~10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な雲母を伴う。粘土化部や粘土脈ははさまれない。			45° 割れ目沿い幅5~10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は挟まない。			59.46m: 傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は挟まない。		
206	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	-	-		
		60mで検尺			60mで検尺					

H24-D1-2

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
1	-	-	0.00	6.81	盛土	0.00	6.81	0.00~6.81m: 盛土	-
2	0.00	0.31	0.00	0.31	礫 φ最大3cm, 黒色の細粒砂岩・泥岩片からなる。	0.00	0.31	0.00~0.31m: 礫 最大径30mmの黒色の細粒砂岩, 泥岩片からなる。	-
3	0.31	2.84	0.31	2.84	砂礫 φ最大3×6cmの角礫だが、大半は10m/m以下の細礫~粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗斑岩あるいはアブライト起源であるが稀に黒色の頁岩片(?)を含む。	0.31	2.84	0.31~2.84m: 砂礫 最大径30×60mmの角礫であるが、径10mm以下の細礫~粗砂を主体とする。粒度は不均質であるが、細粒分は極少量であり、ルーズである。礫は花崗斑岩, アブライト主体であるが、まれに黒色泥岩を含む。	-
4	2.84	6.81	2.84	6.81	シルト質砂礫 φ最大16cm, 大半が花崗斑岩礫だが、アブライト礫もみられる。シルト分を含み、上位層よりやや締まりが良い。	2.84	6.81	2.84~6.81m: シルト質砂礫 最大径160mmの花崗斑岩礫が主体で、アブライト礫も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締まりが良い。	-
5	3.3	3.45	3.30	3.45	粘板岩礫が混じる。	3.30	3.45	3.30~3.45m: 泥岩礫が混じる。	-
6	-	-	3.82	3.82	径4cmのモルタル片を含む	3.82	3.82	3.82m: 径40mmのモルタル片を含む。	-
7	4.00	6.81	4.00	6.81	(色調欄)記載なし	4.00	6.81	(色調欄)にぶい黄	-
8	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35m付近に炭質物片あり。	4.35	4.35	4.35m: 径50mmの炭質物片を含む。	-
9	6.81	6.81	-	-	6.81mで着岩	-	-	-	下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
10	-	-	6.81	33.00	φ2~10mmの石英と長石の斑晶からなる花崗斑岩(Gp)で、長石は白濁化している。	6.81	33.00	6.81~33.00m 花崗斑岩 斑晶は径2~10mmの石英と長石からなる。深度10.58m以下の長石は白濁化している。21.12m以下は所々、アブライトに近い岩相を呈する。	-
11	6.81	10.58	6.81	10.58	40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟弱な白色粘土をはさむものもある。	6.81	10.58	6.81~10.58m: 傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~60°割れ目が分布する。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟弱な白色粘土をはさむものもある。	-
12	7.05	7.63	7.05	7.63	(コアの形状欄) Vランク	7.05	7.63	(コアの形状欄) IVランク	-
13	7.10	7.10	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟弱粘土脈をはさむ。	7.10	7.10	7.10m, 8.11m: 傾斜45~60°で幅0.5~2mmの白色軟弱粘土脈を挟む。	記事内容が同じであるため、8.11mの記事を含めて記載した
14	8.11	8.11	8.11	8.11	45°割れ目に、幅1~2mm白色軟弱粘土脈をはさむ。	8.11	8.11	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
15	8.11	8.32	8.11	8.32	(コアの形状欄) Vランク	8.11	8.32	(コアの形状欄) IVランク	-
16	8.47	9.49	8.47	9.49	(コアの形状欄) Vランク	8.47	9.49	(コアの形状欄) IVランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名: H24-D1-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
17	-	-	-	8.56	8.56	傾斜55°の割れ目に沿って幅2~3mmが淡緑色化し、微細な白雲母が晶出する。	8.56	8.56	8.56m: 傾斜55°の割れ目沿いに幅2~3mmが淡緑色化し、微細な白雲母が晶出する。			
18	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mmの白色軟弱粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	8.89	8.89	8.89m: 傾斜55°の割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。上端側にはマンガン鉱染で黒色化した幅2mmの砂を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
19	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。長石を切断。	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。石英脈が横断する長石は石英脈を挟んでズレていない。長石を切断。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	9.06	9.06	9.06m: 傾斜52°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する長石は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
20	-	-	-	9.54	9.61	傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。	9.54	9.61	9.54~9.61m: 傾斜40°と60°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。			
21	-	-	-	9.77	9.77	傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。	9.77	9.77	9.77m: 傾斜50°の割れ目に酸化汚染が見られる。			
22	9.80	10.00	(コアの形状欄) Vランク	9.80	10.00	(コアの形状欄) IVランク	9.80	10.00	(コアの形状欄) IVランク			
23	10.21	10.21	45°幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。φ5mm石英斑晶を切断している。	10.21	10.21	45°幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。石英脈が横断する石英斑晶は石英脈を挟んでズレていない。φ5mm石英斑晶を切断している。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	10.21	10.21	10.21m: 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する石英斑晶は石英脈を挟んでズレていない。粘土の挟入は見られない。石英脈の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
24	10.58	11.53	50~55°割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布。上位側の10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目のせん断割れ目群を形成している。	10.58	11.53	50~55°割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布。上位側の10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目のせん断割れ目密集部である。一部、割れ目が石英斑晶を横断しているが、石英にズレは認められない。割れ目には挟入物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	10.58	11.53	10.58~11.53m: 傾斜50~55°の割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布する。10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目密集部である。一部、割れ目が石英斑晶を横断しているが、石英にズレは認められない。割れ目には挟入物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。			
25	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。	11.53	11.67	11.53~11.67m: 全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。			
26	11.67	11.95	10°と40°割れ目が細かく分布し、φ20~30mmに岩片化	11.67	11.95	傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、φ20~30mmに岩片化する。	11.67	11.95	11.67~11.95m: 傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、径20~30mmに岩片化する。			
27	11.95	12.13	割れ目ぞいに幅1mmの軟弱な白色粘土脈が多くなり、全体に軟化著しい	11.95	12.13	割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くなり、全体に軟質化著しい	11.95	12.13	11.95~12.13m: 割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くなり、全体に軟質化が著しい。			
28	12.13	12.38	12.30mに62°割れ目が残留するが、これ以外は風化で割れ目は消滅している。	12.13	12.38	12.30mに62°割れ目が残留するが、これ以外は風化で割れ目は消滅している。	-	-	-			

